

支部だより

香川県支部

善行受賞者が 地元市町長に 表敬訪問

受賞者の栄と日本善行会の名を受賞者の地元住民に知って頂くため、西村一夫秀天・支部長が、三市町について四件の表敬訪問を行い、その状況が広報により広く住民に周知されました。これを機会に自治体との連携が図られ、今後の善行活動の輪の拡大が期待されます。

①特別善行金章

西村一夫秀天・支部長 平成二十八年六月十六日、過去の銅賞と銀賞を推薦した多度津町教育委員会現教育長田尾勝氏と同伴で、丸尾幸雄多度津町長を表敬訪問



②秋季善行章

西村治夫氏 平成二十八年十二月二十一日、西村支部長と同伴で梶正治丸亀市長を表敬訪問



③秋季善行章

金岡房子氏 平成二十八年十二月二十二日、西村支部長と同伴で谷川俊博宇多津町長を表敬訪問

④秋季善行章

土田忠芳氏 及び庄野克宏氏 平成二十九年一月十日、西村支部長と同伴で丸尾幸雄多度津町長を表敬訪問



表敬訪問は、初めに西村支部長から善行会の歴史と活動状況を紹介した後、当該市町長からは受賞のお祝い、受賞者の地元への貢献に対する敬意の言葉などを頂き、終始和やかな笑顔の中で進み、受賞者にお祝いの記念品を贈られたところもありました。懇談の後、同支部長から善行者の推薦について協力をお願いしました。

この表敬訪問は、多度津町広報誌平成二十八年八月号、二十九年三月号及び丸亀市広報誌平成二十九年三月号により、当該行政区内にある事業所と全世帯(多度津町約九六〇〇世帯、丸亀市四五〇〇世帯)に配布され、日本善行会の知名度アップに寄与したものとされます。

ふる里自慢

佐賀県唐津支部

受け継がれる 唐津くんちの伝統

唐津市は、佐賀県北西部に位置する県内最大面積の市です。かつて大陸との玄関口として栄えた唐津市の歴史は古く、『魏志倭人伝』のなかにも末盧国(まつろこく)という名で登場します。海・山・川に囲まれ、優雅で荘厳な自然と、万葉・桃



山の風を感じる歴史浪漫に満ちた街です。唐津を語る上で、唐津焼、虹の松原、イカの活き造りなど有名なものは様々ありますが、なかでも「唐津くんち」は欠かせません。

唐津くんちは、唐津神社の秋の例大祭で、毎年十一月二・三・四日の三日間で開催されます。唐津くんちの最大の呼びものは、十四台の曳山です。獅子や兜、船などをモチーフに、和紙を重ね、漆塗りで仕上げの巨大な曳山は、文政二年(一八一九年)に、京都の祇園祭をヒントに、刀町で赤獅子をつくり奉納したのが始まりといわれています。大きいものでは、高さ七メートル、重さ三トンにもなる曳山、極彩



色の様々な装飾が細部まで施されており、見る物を魅了します。

唐津くんちでは、この十四台の曳山を揃いの装束に身を固めた若者が、笛・鐘・太鼓の軽快な囃子と「エンヤ、エンヤ」「ヨイサ、ヨイサ」の掛け声とともに旧城下町を練り歩きます。豪華絢爛な曳山を数百人の若者が誇らしげに掛け声をあげ、威勢よく曳き回す様はまさに圧巻の一言です。

な行事や交流があり、親睦を深めます。その誰もが、自らの町と曳山、そして唐津という地元を誇りに思い、今日に至るまでその魂を脈々と受け継いできました。



福岡県北九州支部

平成二十八年秋季善行表彰伝達式開催

皆さまで台東区支部では二十九年春季受賞者は三組の方々が選ばれました。

日本善行会の高田副会長、東京ブロック長の石毛さんをはじめ皆さんのご協力でなんとか支部らしくなりました。今年二月八日に会員増強を試み、日本善行会の説明会を行いました。当日は服部台東区区长、太田議長、黒田連合町会長など総勢七十二名に参加を得ました。地元の三つの新聞も取り上げられPRが少しできました。その結果五名の増強と町会連合会の後押しで、現在台東区の区民課のご協力の基、百九十九の町会の会長さんに働きかけており、四月二十日現在会員が二十一名で、間もなく特別会員が百名以上になる予定です。またおかげ



秋善行表彰伝達式を十二月二十二日(木)北九州市指定文化財(史跡)の立場茶屋銀杏屋に於いて開催しました。当日はあいにくの雨降りでしたが、六十数名の皆様の参加で和やかなうちにも緊張感ある伝達式でした。



野村支部長より挨拶、受賞者の紹介、藤田耕三会長の「あいさつ」の代読の後、三原朝彦衆議院議員、松尾統章県議會議員、佐々木健五、香月耕治市議會議員よりご祝辞をいただきました。伝達式に入り本部からの表彰

「第八回日本善行会創立八十周年記念事業準備委員会」及び「第五回八〇年のあゆみ編集委員会」

第八回の「日本善行会創立八十周年記念事業準備委員会」と第五回の「八〇年のあゆみ編集委員会」が、四月二十四日グランドヒル市ヶ谷において委員会メンバー七名が出席して開催された。

「記念事業準備委員会」では、六月二十七日の記念式典、祝賀会に向けて今後の段取り等について検討が行われ、必要な作業等について確認がなされることにも諸準備を着実に進めていくこととされた。

「あゆみ編集委員会」では、「八十年のあゆみ」の発行に向けての現在の原稿の状況等について確認が行われ、最終的な編集作業を遺漏なく進めていくことが決定された。

善行川柳

○支払い合い 輪となれ和となる よき社会 北海道 齊藤 勉
評/言わんとすることは理解できるのですが、輪と和が耳には同じに聞こえます。ひと工夫をすると良いですね。

○車いす 押して感じる 道のとげ 東京都 鎌 倉 湖
評/わが子を抱く時は軽いのに、他人の子を抱くと重く感じる。幼児を持つ母親の気持ち。車いすを後ろから押すことの微妙な難しさが分かります。本人の意思に沿うことの気持ちが表れる句です。

○介護する やがて我がと 介護する 香川県 丸野 忠義

評/同感ですね。後期高齢者が2013年に、1420万人だったのが、2025年には、2178万人になります。約38万人の介護従事者が不足する大変な時代が到来するわけです。実感そのものが胸打つ川柳になりました。

※紙面の都合上投稿原文より一部割愛させていただきます。

特に原稿未提出の支部については、最終督促を行うこととなった。該当支部はよろしくお願います。

お知らせ

▽平成二十九年年度 春季・特別善行 表彰式

〔日時〕 五月二十日(土)

〔場所〕 東京都渋谷区 明治神宮参集殿

▽定期総会

〔日時〕 六月二十七日(火)

十三時~十四時

▽創立八十周年記念式典及び祝賀会

一面のご案内の通り